



公修二集

西三系了條上景丸

系

特別
八4
8216





春

春氣和柔

公條

貫河乃瀬これ枕時一わうて
わら春の光柔くあふけけり

霞

川のほとり目新小わらふ山も光れ
香う地よりうき川霧うれ

霞満浦

見はる月小多は若きうわら波
わら色とけり川霧うか

春濱霞

花より浪もやこれ人乃は霞の
くをくらやうすじ雲のわな海に

雲翔

日のほろ多う秘やいほの
雲よりうづりあふ雲うれ

野鶯

ことりして花よりとと
うづりあふ雲うれ

残雪

春風とと細くよ守
雪の中くうその雪うれ

残雪

雪のうづりあふ雲
うづりあふ雲うれ

残雪

雲のうづりあふ雲
うづりあふ雲うれ

るうれは

るく世は花うめ夜未所うれの
ゆくかゆる風といふゆえに

朔去雨

雲よゆく風と志ありて朔去と
らうれにさしう雲ぬれう

春河

岸の雪に春ゆくまに山河を
去しとゆく水れ志う浪

路春草

市人かすこのふれ雪乃道うそ
又ゆるにゆるのう草

新路春草

一と路のゆくぬれの新とかく
か途もや、流る雪のう草

曉月春静

あふり、流るいとく静なり
月をく流る雪こそゆくれ

吾池類

水戸所はほく見れ柳市くをそ乃
物家りやましく池乃う草

田里改鷹

所し人しかありとま可甚れ甲
わんままそそ久向ありう係

開花

市に和れ関の戸所と為うかく
本と急の花乃ひらりやいかま

花苗人

わんたうぬ名にとも見とて
わんたうぬ名にとも見とて

名所花

ひらりまともえ出草れ書目
ひらりまともえ出草れ書目

池標

池標
二れ池のぬ海乃市らの花
ゆりりまともえ出草れ書目

この夕ぐさ来てたぐく杜鵑

暮山屯

あとも来ててはゆ（花）夕月夜
にほくくもやほくく山く路

夏

首夏風

花乃後ふつと人（と夏）の路くと
う地ちくく路れあわぬりふりれ
運かきと出く路あわらりあゆの

郭公

月す地つとくはくほくくまきと
らさりとうは花枝よかきくまきと
こそれ屋さりとく守れやいせん

花枝よ

花枝よ

はくあ（れ）つすは昔れよの築乃
花す地をれふと地とあつと

浦夏月

くく春は浪の戸る道や月の影
うらほぬひしとくす程とあつと

秋

初秋

秋は多ふ吹あふとあふ初風乃
一葉はいつとありあくらりもん

同

月

うらくあり木葉はあやうく道竹の
ち（系）秋葉かきく涼くさ
ありゆいまきまてち家ぬ夕月の
ち（系）もり花影とくありあ
たりひはくあふとあふすにそり

独對月

いとうりふらも交いありけれ

紅葉深

嶺に日影より乃志く終うまき

離菊

志路多入志袖中地より菊を以て

涉茅露

草れまう起るきや杉枝を以てん
風わらわあさ地よりか内所より乃

春泊鹿

う花初さあてまを以秋風

夕虫

きとま少舟守棹鹿れ也
時しとあま地にり秋れ夕謝白

さすやをくれ松ひのき
あけ地をくれゆ魚よりおまは

夕鹿

けり家きき山乃さ成しうれ

冬

冬月夜

う紀雲と志くれは流る守山あり

月成とれまぬ風のさし家内

海色雪

雪く塩とくれとといさす白妙れ

雪冬あふる乃海よりうみぬ

雪埋昔經

ほろとぬと多一守明る昔風ハ

道とあり来りうはじあう言

冬雜

霜とと朝といふ守成りあけ
雪う中く山その雪とあはれ

憲

曉別意

かり来てう地福の爰とあふ言
月と見とてわまわくの床

寄反意

月禮のこれ志のひふ多の神の反
ひとととさけり来半の言

祈禱意

海に神と釣とらあふ言
うけひく道成れなると

増意

年層とと行ひし言とあはれ
いなり神の多成れと多ん

忘意

かうへ言ととひあふ言

あはれなるはては遠くはるかに

寄月窓

かすくの露は屋と連る月の影
あはれなるはては遠くはるかに

云出悔意

わがひあまらる多きおはけと云
いけぬおはるるうらみと云

恨牙意

いじろあはれはくはれはるる

そらららあはれはるる

逢不會意

あはれまては身のあはれはるる
一帯のあはれと又あはれはるる

寄風無常

あはれぬはるるあはれのあはれはるる
あはれぬはるるあはれのあはれはるる

心念不空過

雲霧はあはれはるるあはれのあはれはるる

うらまはひやありぬ月

社頭霞

見よこしをたふしその
しづかにてつとむ神を

堯空

禁中梅

紅紫にぬきけし人の
花やまをふりてくらん

公條

古寺鶯

あかぬ海深いこれと
曉さうふうとむとつと

道悦

故郷柳

事柳のかつとむを
いふとむらうまれとうれ

周桂

山家春月

いふとむらうまれと
いふとむらうまれの月

定陸

田里帰雁

いふとむらうまれと
いふとむらうまれの月

實世

水口春雨

雨にたゞしきつらきもあさくら
みればこころは後の川を

下政

閑居花

庭にじつとまゐる人あはれ
身のいさしきさうりけり

壽慶

河歎冬

ふみのうらつにさりぬるま
あしくまゝの花しるすて

兼成

草庵藤

羨うつらういづよまてとま
さうれけれ松のしぬ店

其阿

淡如恋

身よかりきくわらうや舞
たうらうきものしる月歌

月繁

手忍恋

とすあまのしるつらふか
うらたれらうさうらわ

珠長

共仍恋

夕ぐれのおもひのさうり
あうらうの華うらう

年

人傳恋

けしねやねやうらうら
かまうとんつらうらう

宏如

琴久恋

とすうらうとすうらう
あひらうらうらうらう

守有

峯雲

らぬれく何ゆる華に
あひらうらうらうらう

市河

台風

月影を屋上のあしし
あひらうらうらうらう

政涉

側燕

候木のうらうらうら
うらうらうらうらう

京範

釣舟

舟を成すやしつるやうなれし
うたてよわららり舟のつらみ
屋より光をうらよみをせ川
わたりて世のまにうらみん

紅陽

書

社氏祝

落葉

初月の一葉との涙ありまし

云條

菊

おろ神のきこいしつる朝つら
こわれてしほよ葉れまゝ露

為和

月

うきこれよせのあはれしつら
みらんこゝれれれくつ月

重親

虫

炸つとこ庭のうきこれ朝あし
よとれりしやうきをまらん

隆康

暮秋

あついでしつら秋の夕なれよ
あはれしつら入あいのつら

言徳

月

あついでしつら秋の夕なれよ
あはれしつら入あいのつら

範久

書秋

あついでしつら秋の夕なれよ
あはれしつら入あいのつら

海継

河千鳥

あついでしつら秋の夕なれよ
あはれしつら入あいのつら

云條

名所浦

あついでしつら秋の夕なれよ
あはれしつら入あいのつら

雅庸

恋

あついでしつら秋の夕なれよ
あはれしつら入あいのつら

堯剛

ふとや
のこし

お方の海よりくまの葉のふりまぬ
むらよせのちかきやあはれ

範久

秋
月

りしはるる秋の月のかつめ
露れをくまのちかきやあはれ

公條

か
月

はるる月のかつめ
露れをくまのちかきやあはれ

實世

ら
月

はるる月のかつめ
露れをくまのちかきやあはれ

伴長

ら
月

はるる月のかつめ
露れをくまのちかきやあはれ

公教

あ
月の

君のあはれはしにらむ
よき月のちかきやあはれ

實定

を
あ

おくしよのちかきやあはれ
とれあはれはしにらむ

公順

あ
月

秋のあはれはしにらむ
とれあはれはしにらむ

周桂

あ
月

あはれはしにらむ
とれあはれはしにらむ

祐清

暮
秋

あはれはしにらむ
とれあはれはしにらむ

為和

故
月

あはれはしにらむ
とれあはれはしにらむ

水
月

あはれはしにらむ
とれあはれはしにらむ

水月

水月

後柏原院

うひ杉風の拂
まゝの若きときなる
あましくしつゝあふく
恨くはるる海舟那
實仁

取捨

善悪

を以てしむに朽敗の掃
くもてしむるの若くともなる
大なる善しはくもてしむる
恨くもてしむるは海に如

實仁

